慣用句の きまりを 見つけよう①

同じ 体の ぶぶんの ことばを あつめよう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

同じ 体の ぶぶんの 慣用句を 5つ 読んで、ぜんぶに 当てはまる「きまり」を 1つ 見つけよう。

「きまりの 箱」の ア～カから えらんで、5つに つき 記号を 1つ、右の □に 書こう。

きまりの 箱

ア 話す・ことばを つかう・つたえる	イ ひょうばん・つきあい
ウ 見る・見わける	エ 気もちの うごき
オ あつかう・せわ・てつだい	カ 聞く・聞きとる

れい 目の ことば　3つとも 見る・見わける はなし → ウ

		きまりは？
目が利く	＝ よい ものと わるい ものを 見わける ことが できる	ウ
目を配る	＝ ぜんたいに 気を くばって、あちこちを 見る	
目が泳ぐ	＝ ふあんで、視線が おちつかない	

問1 手の ことば

		きまりは？
手に余る	＝ 自分の ちからでは かたづけきれない	□
手に負えない	＝ 相手の いきおいが 強すぎて、かたづけられない	
手玉に 取る	＝ 相手を 思いどおりに あやつる	
手塩に かける	＝ 自分で 世話を して、たいせつに 育てる	
手綱を 引く	＝ 相手を きびしく かんりして、いきおいを おさえる	

問2 顔の ことば

		きまりは？
顔が売れる	＝ 広く 知れわたって、ゆうめいに なる	□
顔を売る	＝ 自分の 名前や ことを、広く 知ってもらう	
顔が きく	＝ 知り合いが 多くて、とくべつに よく して もらえる	
顔が 立つ	＝ みんなの 前で、立場が 守られる	
顔を潰す	＝ 相手の 立場を わるく して、はじを かかせる	

問3 きまりに 合うかな？

手の ことばは 問1、顔の ことばは 問2 で えらんだ きまりに 合えば ○、合わなければ ×を □に 書こう。

(1) 手前味噌	＝ 自分で 自分の した ことを、人に ほめて 言う こと	□
(2) 手中に収める	＝ 自分の ものにして、思いどおりに できる ようにする	□
(3) 顔を つなぐ	＝ 知り合いとの かんけいを たもつ	□
(4) 顔を曇らせる	＝ しんぱいや かなしみで、くらい 表情を する	□

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「慣用句」のプリント一覧がひらきます

慣用句の 例外を さがそう②

合わない ことばを 見つけよう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

同じ 体の ぶぶんの 慣用句の 中に、問ごとの きまりに 合わない ことばが 1つ まざって います。

①合わない ことばの 左の 番号を、右の 上の □に 書こう。

②その ことばは ほんとうは どの きまり?「きまりの 箱」の 記号を、右の 下の □に 書こう。

きまりの 箱

ア 話す・ことばを つかう	イ 気もちの うごき
ウ 考える ちから・考え方	エ ものごとの のび・とまり
オ 見る・見わける	カ 聞く・聞きとる

問1 口の ことば

口の ことばは「ア 話す・ことばを つかう」の はなしが 多い。

(1) 口を 開く ＝ 今まで だまって いた 人が、話しはじめる

(2) 口が 悪い ＝ 言葉づかいが あらくて、人を きずつける ことを 言う

(3) 口を 閉ざす ＝ 何も 言わない ように する

(4) 口を 尖らせる ＝ ふまんな 気もちを 顔に 出す

(5) 口を 利く ＝ 話を して、人と 人の なかだちを する

合わない ことばの 番号 □

その ことばの きまり □

問2 頭の ことば

頭の ことばは「ウ 考える ちから・考え方」の はなしが 多い。

(1) 頭が 固い ＝ 考えが かたまって いて、その ばに 合わせて 考えられない

(2) 頭打ちに なる ＝ ものごとの のびが とまって、もう のびなく なる

(3) 頭が 切れる ＝ 考える ちからが すぐれて いて、はんだんが はやい

合わない ことばの 番号 □

その ことばの きまり □

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「慣用句」のプリント一覧がひらきます

慣用句を きまりで 考えよう③

はじめて 見る ことばを 考えよう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

(1)〜(6)の ことばの 意味を、下の きまりを 手がかりに 考えよう。

ア〜ウは 意味の こうほです。ア〜ウから 1つずつ えらんで、右の □に 記号を 書こう。

この きまりは「だいたい 当てはまる」めやすです。

きまり

腕の ことばは「うでまえ・ぎじゅつ」の はなしが 多い

鼻の ことばは「自信・自慢・いばる」ようすの はなしが 多い

この プリントの ことばは、ぜんぶ きまりに 合う ことばです。

(1) 腕に 覚えが ある

ア うでに のこった きずあとを おぼえて いる

イ 自分の うでまえに 自信が ある

ウ 自分は えらいと 思って、いばって いる

□

(2) 腕に よりを かける

ア 自慢して、まわりの 人に いばって 見せる

イ うでに 糸を よりあわせて 太く する

ウ うでまえを 見せようと はりきって じゅんびを する

□

(3) 腕利き

ア しごとの うでまえが すぐれて いる 人

イ うでの ちからが とても 強い 人

ウ えらそうに いばって いる 人

□

(4) 腕自慢

ア 太い うでを 見せて 友だちを わらわせる こと

イ えらそうに いばって 人を 見下す こと

ウ 自分の うでまえを 人に ほこる こと

□

(5) 鼻持ちならない

ア はなの においが きつくて、がまん できない

イ えらそうで いやみな ようすが、見て いられない

ウ うでまえが わるくて、しごとが はかどらない

□

(6) 鼻っ柱が 強い

ア 気が 強くて、人に まけたがらない

イ ぎじゅつを みがいて、うまく なる

ウ はなの ほねが かたくて、おれにくい

□

話す・聞くの ことばを わけよう④

体の ぶぶんの きまりを 使おう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

(1)〜(7)の 意味を 読んで、「きまりの 箱」の ア・イ・ウから 1つ えらび、右の □に 書こう。

話す はなしは ア、聞く はなしは イ、どちらでも ない はなしは ウ。

ことばの はじめの 字（体の ぶぶん）だけで 決めると、まちがう ことが あります。

きまりの 箱	ア 話す・ことばを つたえる はなし イ 聞く・聞きとる はなし ウ どちらでも ない はなし

れい

舌(した)を 出す ＝ しっぱいした ときや、からかう ときに する しぐさ

きまりは？ **ウ**

つぎの ことばは、ア・イ・ウの どれかな？

(1) **耳に 残(のこ)る** ＝ 聞いた 音や ことばが、いつまでも わすれられない □

(2) **歯に 衣着(きぬ)せぬ** ＝ えんりょ しないで、思った ことを ずけずけ 言う □

(3) **耳目を 集める** ＝ 多くの 人の 関心(かんしん)や 注目を あつめる □

(4) **耳を ふさぐ** ＝ 聞きたく ないので、聞く ことを ことわる □

(5) **口を 糊(のり)する** ＝ やっとの ことで くらしを 立てる □

(6) **口裏(うら)を 合わせる** ＝ 前もって そうだんして、言う ことを そろえる □

(7) **耳朶(じだ)に 触(ふ)れる** ＝ ふと 耳に 入って、聞き知る □

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「慣用句」のプリント一覧がひらきます

慣用句(かんようく)の きまりを 書こう⑤

きまりを 文に して 書こう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

問1・問2とも、4つの ことばの 意味から きまりを 見つけ、それぞれの 下の 線に 1文で 書こう。

書き方 〔 〕に ことばを 入れて 書く。〔体の ぶぶん〕の ことばは、〔どんな はなし〕が 多い。

れい 腕(うで)の ことばは、うでまえの はなしが 多い。(1～2行で 書けます。線は あまっても よい)

問1 胸(むね)の ことば

(1) 胸(むね)が 潰(つぶ)れる ＝ かなしさや しんぱいで、たまらなく くるしくなる

(2) 胸(むね)が 騒(さわ)ぐ ＝ わるい よかんが して、おちつかない

(3) 胸(むね)に 秘(ひ)める ＝ 心の 中に しまって おいて、人には 言わない

(4) 胸(むね)を 焦(こ)がす ＝ あることを 強く 思って、せつなく なる

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問2 目の ことば

(1) 目を 向ける ＝ あることに 気づいて、注意を はらう

(2) 目星を つける ＝ だいたいの 見当を つけて、ねらいを 決める

(3) 目処(めど)が 立つ ＝ これから どうなるか、見とおしが つく

(4) 目端(めはし)が 利(き)く ＝ その 場の ようすに すばやく 気づいて、うまく うごく

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「慣用句」のプリント一覧がひらきます

慣用句の きまりを 見つけよう①【こたえ】

同じ 体の ぶぶんの ことばを あつめよう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

同じ 体の ぶぶんの 慣用句を 5つ 読んで、ぜんぶに 当てはまる「きまり」を 1つ 見つけよう。

「きまりの 箱」の ア～カから えらんで、5つに つき 記号を 1つ、右の □に 書こう。

きまりの 箱

ア 話す・ことばを つかう・つたえる	イ ひょうばん・つきあい
ウ 見る・見わける	エ 気もちの うごき
オ あつかう・せわ・てつだい	カ 聞く・聞きとる

れい 目の ことば

3つとも 見る・見わける はなし → ウ

- **目が利く** ＝ よい ものと わるい ものを 見わける ことが できる
- **目を配る** ＝ ぜんたいに 気を くばって、あちこちを 見る
- **目が泳ぐ** ＝ ふあんで、視線が おちつかない

きまりは？ **ウ**

問1 手の ことば

5つとも 人や ものごとを あつかう はなし

- **手に余る** ＝ 自分の ちからでは かたづけきれない
- **手に負えない** ＝ 相手の いきおいが 強すぎて、かたづけられない
- **手玉に 取る** ＝ 相手を 思いどおりに あやつる
- **手塩に かける** ＝ 自分で 世話を して、たいせつに 育てる
- **手綱を 引く** ＝ 相手を きびしく かんりして、いきおいを おさえる

きまりは？ **オ**

問2 顔の ことば

5つとも ひょうばん・つきあいの はなし

- **顔が売れる** ＝ 広く 知れわたって、ゆうめいに なる
- **顔を売る** ＝ 自分の 名前や ことを、広く 知ってもらう
- **顔が きく** ＝ 知り合いが 多くて、とくべつに よく して もらえる
- **顔が 立つ** ＝ みんなの 前で、立場が 守られる
- **顔を潰す** ＝ 相手の 立場を わるく して、はじを かかせる

きまりは？ **イ**

問3 きまりに 合うかな？

手の ことばは 問1、顔の ことばは 問2 で えらんだ きまりに 合えば ○、合わなければ ×を □に 書こう。

(1) 手前味噌 ＝ 自分で 自分の した ことを、人に ほめて 言う こと

『手前』は 自分の こと。手の はたらきの はなしでは ない

×

(2) 手中に収める ＝ 自分の ものにして、思いどおりに できる ようにする

自分の もとに おいて あつかう はなし

○

(3) 顔を つなぐ ＝ 知り合いとの かんけいを たもつ

知り合いとの かんけいの はなし

○

(4) 顔を曇らせる ＝ しんぱいや かなしみで、くらい 表情を する

顔つきの はなしで、ひょうばんの はなしでは ない

×

慣用句の 例外を さがそう②【こたえ】

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

合わない ことばを 見つけよう

まるつけ ロの ことばで 話す はなしでは ないのは「ロを とがらせる」(ふまんを 顔に 出す=イ)。「ロを 閉ざす」は 話さない はなしで、話す はなしの なかま。
頭の ことばで 合わないのは「頭打ちに なる」(のびが とまる=エ)。意味を 読み直して たしかめよう。

きまりの 箱

ア 話す・ことばを つかう	イ 気もちの うごき
ウ 考える ちから・考え方	エ ものごとの のび・とまり
オ 見る・見わける	カ 聞く・聞きとる

問1 ロの ことば

ロの ことばは「ア 話す・ことばを つかう」の はなしが 多い。

(1) **ロを 開く** ＝ 今まで だまって いた 人が、話しはじめる

(2) **ロが 悪い** ＝ 言葉づかいが あらくて、人を きずつける ことを 言う

(3) **ロを 閉ざす** ＝ 何も 言わない ように する

(4) **ロを 尖らせる** ＝ ふまんな 気もちを 顔に 出す
しぐさで ふまんを あらわす。話す はなしでは ない

(5) **ロを 利く** ＝ 話を して、人と 人の なかだちを する

合わない ことばの 番号: **4**

その ことばの きまり: **イ**

問2 頭の ことば

頭の ことばは「ウ 考える ちから・考え方」の はなしが 多い。

(1) **頭が 固い** ＝ 考えが かたまって いて、その ばに 合わせて 考えられない

(2) **頭打ちに なる** ＝ ものごとの のびが とまって、もう のびなく なる
のびが とまる はなし。考える はなしでは ない

(3) **頭が 切れる** ＝ 考える ちからが すぐれて いて、はんだんが はやい

合わない ことばの 番号: **2**

その ことばの きまり: **エ**

慣用句を きまりで 考えよう③【こたえ】

はじめて 見る ことばを 考えよう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

まるつけ 腕の ことばは うでまえの はなし、鼻の ことばは 自信・自慢の はなし。

字の とおりの 意味や、もう一方の きまりの 意味に ひかれて いないか 聞いて みよう。

きまり

腕の ことばは「うでまえ・ぎじゅつ」の はなしが 多い

鼻の ことばは「自信・自慢・いばる」ようすの はなしが 多い

この プリントの ことばは、ぜんぶ きまりに 合う ことばです。

(1) 腕に 覚えが ある

ア うでに のこった きずあとを おぼえて いる

イ 自分の うでまえに 自信が ある

ウ 自分は えらいと 思って、いばって いる

ア=字どおりに 読んだ 意味 ウ=鼻の きまりの 意味

イ

(2) 腕に よりを かける

ア 自慢して、まわりの 人に いばって 見せる

イ うでに 糸を よりあわせて 太く する

ウ うでまえを 見せようと はりきって じゅんびを する

ア=鼻の きまりの 意味 イ=字どおりに 読んだ 意味

ウ

(3) 腕利き

ア しごとの うでまえが すぐれて いる 人

イ うでの ちからが とても 強い 人

ウ えらそうに いばって いる 人

イ=字どおりに 読んだ 意味 ウ=鼻の きまりの 意味

ア

(4) 腕自慢

ア 太い うでを 見せて 友だちを わらわせる こと

イ えらそうに いばって 人を 見下す こと

ウ 自分の うでまえを 人に ほこる こと

ア=字どおりに 読んだ 意味 イ=鼻の きまりの 意味

ウ

(5) 鼻持ちならない

ア はなの においが きつくて、がまん できない

イ えらそうで いやみな ようすが、見て いられない

ウ うでまえが わるくて、しごとが はかどらない

ア=字どおりに 読んだ 意味 ウ=腕の きまりの 意味

イ

(6) 鼻っ柱が 強い

ア 気が 強くて、人に まけたがらない

イ ぎじゅつを みがいて、うまく なる

ウ はなの ほねが かたくて、おれにくい

イ=腕の きまりの 意味 ウ=字どおりに 読んだ 意味

ア

話す・聞くの ことばを わけよう④【こたえ】

体の ぶぶんの きまりを 使おう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

まるつけ　歯に 衣着(きぬ)せぬ・口裏(うら)を 合わせるは 話す（ア）、耳に 残(のこ)る・耳を ふさぐ・耳朶(じだ)に ふれるは 聞く（イ）。
耳目を あつめる・口を 糊(のり)するは、体の ぶぶんが 耳・口でも 聞く・話すの はなしでは ない（ウ）。

きまりの 箱

ア　話す・ことばを つたえる はなし
イ　聞く・聞きとる はなし
ウ　どちらでも ない はなし

れい

舌(した)を 出す ＝ しっぱいした ときや、からかう ときに する しぐさ
しぐさの はなしで、話す・聞くでは ない

きまりは？ **ウ**

つぎの ことばは、ア・イ・ウの どれかな？

(1) **耳に 残(のこ)る** ＝ 聞いた 音や ことばが、いつまでも わすれられない
聞いた ことが 心に のこる はなし　**イ**

(2) **歯に 衣着(きぬ)せぬ** ＝ えんりょ しないで、思った ことを ずけずけ 言う
えんりょ なく 言う はなし　**ア**

(3) **耳目を 集める** ＝ 多くの 人の 関心(かんしん)や 注目を あつめる
みんなの 注目を あつめる はなしで、聞く はなしでは ない　**ウ**

(4) **耳を ふさぐ** ＝ 聞きたく ないので、聞く ことを ことわる
聞く ことを ことわる はなし　**イ**

(5) **口を 糊(のり)する** ＝ やっとの ことで くらしを 立てる
くらしを 立てる はなしで、話す はなしでは ない　**ウ**

(6) **口裏(うら)を 合わせる** ＝ 前もって そうだんして、言う ことを そろえる
言う ことを そろえる はなし　**ア**

(7) **耳朶(じだ)に 触(ふ)れる** ＝ ふと 耳に 入って、聞き知る
ふと 聞いて 知る はなし　**イ**

慣用句(かんようく)の きまりを 書こう⑤【こたえ】

きまりを 文に して 書こう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

まるつけ めやすは 2つ。①体の ぶぶん（むね・め）が 入って いる。②はなしの 中身が 書けて いる。
「多い」と 書いて ある ことが 大切です。ぜんぶに 当てはまるとは かぎらない きまりだからです。

問1 胸(むね)の ことば

(1) **胸(むね)が 潰(つぶ)れる** ＝ かなしさや しんぱいで、たまらなく くるしくなる

(2) **胸(むね)が 騒(さわ)ぐ** ＝ わるい よかんが して、おちつかない

(3) **胸(むね)に 秘(ひ)める** ＝ 心の 中に しまって おいて、人には 言わない

(4) **胸(むね)を 焦(こ)がす** ＝ あることを 強く 思って、せつなく なる

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

胸(むね)の ことばは、心の 中の おもいや 気もちの はなしが 多い。

めやす □体の ぶぶん（むね）が ある □心・気もち・思い などの はなしが 書けて いる

こたえは いちれいです。めやすの 2つが できて いれば、ことばが ちがっても ○。

問2 目の ことば

(1) **目を 向ける** ＝ あることに 気づいて、注意を はらう

(2) **目星を つける** ＝ だいたいの 見当を つけて、ねらいを 決める

(3) **目処(めど)が 立つ** ＝ これから どうなるか、見とおしが つく

(4) **目端(めはし)が 利(き)く** ＝ その 場の ようすに すばやく 気づいて、うまく うごく

この 4つに 当てはまる「きまり」を、文に して 書こう。

目の ことばは、気づく・見とおす・見当を つける はなしが 多い。

めやす □体の ぶぶん（め）が ある □気づく・見とおす・見当を つける などの はなしが 書けて いる

こたえは いちれいです。「見る はなし」でも ○。「気づく・見とおす」まで 書けると ◎。